

2022年7月21日

お客様各位

日本農薬株式会社

農薬登録のご連絡の件

首記の件、下記について登録されましたのでご連絡致します。

記
適用拡大 2022年7月20日付（15件）

(1) ブイゲットバイソン粒剤

登録第 23990 号

使用量の追加: 稲(箱育苗)/高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアクロプリトを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネミスゾウムシ イネドロイムシ	高密度には種する場合は 1 kg/10a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1箱当り 50～100g)	緑化期～ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	3回以内 (移植時までの処理は 1回以内、本田での散布は 2回以内)

【追加する注意事項】

育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

【変更する注意事項】

稲の葉が濡れている場合には、散布前に葉に付いている露を払い落としてから薬剤を散布すること。

(2) ブイゲットバリアード粒剤

登録第 21357 号

- ①使用量の追加: 稲(箱育苗)/高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)
- ②チアジニルを含む農薬の総使用回数表記変更: 3回以内(育苗箱散布及び側条施用は合計1回以内、本田での散布は2回以内)
⇒3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアクロプリドを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネミズウムシ イネドクイムシ ツマグロコバイ 白葉枯病	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植10日前 ～移植当日	1回	育苗箱中の 苗の上から 均一に 散布する	1回	3回以内 (移植時までの 処理は 1回以内、 本田での 散布は 2回以内)
	もみ枯細菌病		移植3日前 ～移植当日				
	ニカメイチュウ		移植当日				
	いもち病 イネミズウムシ イネドクイムシ ツマグロコバイ 白葉枯病	高密度に は種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り 50～100g)	移植10日前 ～移植当日				
	もみ枯細菌病		移植3日前 ～移植当日				
	ニカメイチュウ		移植当日				

【追加する注意事項】

育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

【変更する注意事項】

- ・稲の葉が濡れている場合には、散布前に葉に付いている露を払い落としてから薬剤を散布すること。
- ・本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。

(3) ブイゲットフェルテラゼクサロンL粒剤
登録第 24135 号

使用量の追加: 稲(箱育苗)/高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミスゾウムシ イネトロイムシ ウンカ類 ツマゲロコバイ コブノメイガ ニカメイチュウ イネツトムシ フタオビコヤガ	高密度には種する場合は 1 kg/10a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1 箱当り 50～100g)	緑化期～ 移植当日	1 回	本剤の 所定量を 育苗箱の 上から 均一に 散布する	1 回	1 回	3 回以内 (移植時までの 処理は 1 回以内、 本田での 散布は 2 回以内)
	内穎褐変病		移植 3 日前 ～移植当日					

【追加する注意事項】

育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾籾として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

【変更する注意事項】

- ・稲の葉が濡れている場合には、散布前に葉に付いている露を払い落としてから薬剤を散布すること。
- ・本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。

(4) ブイゲットフェルテラ粒剤

登録第 23475 号

使用量の追加: 稲(箱育苗)/高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、
使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)

【変更後】

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロナトリプロール を含む農薬の 総使用回数	チアジニル を含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 ニカメイチュウ イネミスゾウムシ イネドクオイムシ ツマグロヨコバイ フタオヒコヤガ	高密度には種 する場合は 1 kg/10a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1箱当り 50～100g)	緑化期～ 移植当日	1 回	本剤の 所定量を 育苗箱の 上から 均一に 散布する	1 回	3 回以内 (移植時までの 処理は 1 回以内、 本田での 散布は 2 回以内)
	もみ枯細菌病 イネヒカモグリハエ		移植 3 日前 ～移植当日				
	コブノメイガ イネツトムシ		移植当日				

【追加する注意事項】

育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾糞として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

【変更する注意事項】

- ・稲の葉が濡れている場合には、散布前に葉に付いている露を払い落としてから薬剤を散布すること。
- ・本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。

(5) ブイゲットパディート粒剤

登録第 23666 号

使用量の追加: 稲(箱育苗)/高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	チアゾニルを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミスゾウムシ イネトロオウムシ ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ イネヒハモグリバエ フタオビコヤカ コブノメイガ イナコ類	高密度には種する場合は 1 kg/10a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1 箱当り 50～100g)	緑化期～ 移植当日	1 回	本剤の 所定量を 育苗箱の 上から 均一に 散布する。	1 回	3 回以内 (移植時までの 処理は 1 回以内、 本田での 散布は 2 回以内)
	イネツムシ ヒメビウンカ		移植 3 日前 ～移植当日				

【追加する注意事項】

育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

【変更する注意事項】

本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。

(6) ブイゲットプリンス粒剤 10

登録第 21052 号

- ①使用量の追加: 稲(箱育苗)、いもち病、イネミズウムシ、イネドコロイムシ、ウンカ類、コブノメイガ、ニカメイチュウ、イナゴ類、イネツトムシ、白葉枯病/高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)
- ②チアジニルを含む農薬の総使用回数表記変更: 3回以内(育苗箱散布及び側条施用は合計1回以内、本田での散布は2回以内)
⇒3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネミズウムシ イネドコロイムシ ウンカ類 コブノメイガ ニカメイチュウ イナゴ類 イネツトムシ 白葉枯病	高密度には種する場合は 1 kg/10a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1箱当り 50～100g)	緑化期	1 回	育苗箱の上から 均一に 散布する。	1 回	3 回以内 (移植時までの 処理は 1 回以内、 本田での 散布は 2 回以内)
		育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1箱当り 50g	緑化期～ 移植当日				
	もみ枯細菌病 内穎褐変病	移植当日					

【追加する注意事項】

育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

【変更する注意事項】

- ・稲の葉が濡れている場合には、散布前に葉に付いている露を払い落としてから薬剤を散布すること。
- ・本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。
- ・きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布すること。

(7) コメホープ箱粒剤

登録第 22003 号

- ①使用量の追加: 稲(箱育苗)、いもち病、イネミズウムシ、イネトヨイムシ、ウンカ類、コブノメイガ、ニカメイチュウ、イナゴ類、イネツトムシ、白葉枯病/高密度には種する場合は1kg/10a
(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)
- ②チアジニルを含む農薬の総使用回数表記変更: 3回以内(育苗箱散布及び側条施用は合計1回以内、本田での散布は2回以内)
⇒3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)
- ③使用時期の変更: 白葉枯病/移植当日⇒緑化期～移植当日
- ④適用病害虫名の追加: 内穎褐変病(移植当日)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネミズウムシ イネトヨイムシ ウンカ類 コブノメイガ ニカメイチュウ イナゴ類 イネツトムシ 白葉枯病	高密度には種する場合は 1 kg/10a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1 箱当り 50～100g)	緑化期	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)
	もみ枯細菌病 内穎褐変病	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1 箱当り 50g	緑化期～ 移植当日				
			移植当日				

【追加する注意事項】

育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

【変更する注意事項】

- ・稲の葉が濡れている場合には、散布前に葉に付いている露を払い落としてから薬剤を散布すること。
- ・本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。
- ・きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布すること。

(8) ブイゲットプリンスリンバーL粒剤
登録第 22010 号

使用量の追加: 稲(箱育苗)/高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数	フラトピルを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 紋枯病 ウンカ類 ニカメイチュウ イネミスゾウムシ イネドコロイムシ コブノメイガ イネツトムシ 白葉枯病	高密度には種する場合は 1 kg/10a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1箱当り 50～100g)	緑化期～ 移植当日	1回	本剤の 所定量を 育苗箱の 苗の上から 均一に 散布する。	1回	3回以内 (移植時 までの 処理は 1回以内、 本田での 散布は 2回以内)	2回以内 (移植時 までの 処理は 1回以内)
	もみ枯細菌病		移植3日前 ～移植当日					
	内穎褐変病		移植当日					

【追加する注意事項】

育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粕として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

【変更する注意事項】

- ・稲の葉が濡れている場合には、散布前に葉に付いている露を払い落としてから薬剤を散布すること。
- ・軟弱徒長苗、むれ苗又は苗の生育が不良な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- ・本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。

(9) アプライパディート粒剤

登録第 23751 号

使用量の追加: 稲(箱育苗)/高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネミスゾウムシ イネトロオウムシ	高密度に は種する場合は 1 kg/10a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1箱当り 50～100g)	は種前	1 回	本剤の所定量を 育苗箱の床土 又は覆土に均一 に混和する	1 回	3 回以内 (移植時まで の 処理は 1 回以内、 本田での 散布は 2 回以内)
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミスゾウムシ イネトロオウムシ ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ イネヒハモグリハエ イナゴ類 コブノメイガ イネツトムシ ヒメビウンカ		は種時 覆土前		本剤の 所定量を 育苗箱の 上から均一に 散布する		

【追加する注意事項】

育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾籾として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

【変更する注意事項】

本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。

(10) アプライフェルテラ粒剤
登録第 22786 号

使用量の追加: 稲(箱育苗)/高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロトラニリプロールを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病	高密度には種する場合は 1 kg/10a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1箱当り 50～100g)	は種前	1回	本剤の所定量を育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する	1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)
	イネミスゾウムシ イネドクオウムシ				本剤の所定量を育苗箱の床土に均一に混和する		
	いもち病 イネミスゾウムシ イネドクオウムシ 白葉枯病 もみ枯細菌病 ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ コブノメイガ イネヒメハモグリハエ		は種時 覆土前		本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する		

【追加する注意事項】

育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

【変更する注意事項】

本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。

(11) アプライプリンス粒剤 10
登録第 22039 号

使用量の追加: 稲(箱育苗)/高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病	高密度には種する場合は 1 kg/10a (育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌 約 5ℓ) 1 箱当り 50～100g)	は種前	1回	本剤の所定量を育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する	1回	3回以内 (移植時までの 処理は 1回以内、 本田での 散布は 2回以内)
	イネミスゾウムシ イネドロオウムシ ニカメイチュウ				本剤の所定量を育苗箱の床土に均一に混和する		
	いもち病 白葉枯病 イネミスゾウムシ イネドロオウムシ ウンカ類 ニカメイチュウ イナゴ類 コブノメイガ イネツトムシ		は種時覆土前～緑化始期		本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する		
	もみ枯細菌病 内穎褐変病		は種時覆土前				

【追加する注意事項】

育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

【変更する注意事項】

本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。

(12) フジワンフェルテラ粒剤
登録第 22567 号

使用量の追加: 稲(箱育苗)/高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロナトラニプロールを含む農薬の総使用回数	イソプロチオランを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 ニカメイチュウ イネミスゾウムシ イネトノオイムシ	高密度には種する場合は 1 kg/10a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1箱当り 50～100g)	は種時覆土後 ～移植当日	1 回	本剤の 所定量を 育苗箱の 上から 均一に 散布する	1 回	3回以内 (移植前は 1回以内、 本田では 2回以内)
	ツマゲロコバイ フタホヒコヤガ		緑化期～ 移植当日				
	イネツトムシ		移植当日				

【追加する注意事項】

育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粕として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

(13) 日農フジワンプリンス粒剤
登録第 19231 号

使用量の追加: 稲(箱育苗)/高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	イソプロチオランを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 ウカ類 イネミスゾウムシ イネトノオイムシ コブノメイガ ニカメイチュウ イネツトムシ イナゴ類	高密度には種する場合は 1 kg/10a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1箱当り 50～100g)	緑化期～ 移植当日	1 回	育苗箱の 上から 均一に 散布する。	1 回	3回以内 (移植前は 1回以内、 本田では 2回以内)
	イネヒハモグリハエ		移植前3日 ～移植当日				

【追加する注意事項】

育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粕として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

(14) ピカピカ粒剤
登録第 20234 号

使用量の追加: 稲(箱育苗)/高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	イソプロチオランを含む農薬の総使用回数	ピロキロンを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 ウンカ類 イネミスゾウムシ イネドオイムシ コブノメイガ ニカメイチュウ	高密度には種する場合は 1 kg/10a (育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5ℓ) 1箱当り 50～100g)	移植前3日 ～移植当日	1回	育苗箱の上から 均一に 散布する。	1回	3回以内 (移植前は 1回以内、 本田では 2回以内)	3回以内 (移植時までの 処理は 1回以内、 本田では 2回以内)

【追加する注意事項】

育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

(15) 日農ジマンダイセンフロアブル
登録第 19437 号

作物名及び使用時期の変更: 「ぶどう(露地栽培)/収穫60日前まで」、「ぶどう(施設栽培)/開花期まで」
⇒「ぶどう/収穫45日前まで」

【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	マンゼブを含む農薬の総使用回数
ぶどう	べと病	800～ 1000倍	200～700 ℓ/10a	収穫 45日前 まで	2回以内	散布	2回以内
	黒とう病 晩腐病	800倍					

* 注意事項の変更はありません。